The39th
Passenger Cars & Motorcycles
TOKYO MOTOR SHOW 2005

News vol.16 平成17年11月4日
第39回東京モーターショー2005 Passenger Cars & Motorcycles 乗用車・二輪車

"Driving Tomorrow!" from Tokyo みんながココロに描いてる、くるまのすべてに新提案。

# 「先進の匠」を競う

## ―カロッツェリア展―7社・1大学の15台が参加

イベントホールには、カロッツェリア（カーデザイン工房）が送り出してきた個性豊かなオリジナルカーが展示されている。前回ショー（第37回）に続く2回目の開催で、今回は7社・1大学が参加、出展台数は15台。会場では「東京モーターショーの50年を振り返る特別展示」も行われており、国産車の歴代名車たちと現代のクルマの匠たちの力作が同時に見られるとあって、イベントホールは大変な盛況だ。

### 慶應義塾大学電気自動車研究室

*Carrozzeria*

イタリアで驚異の時速370kmを計時した記録挑戦用「エリーカ」の公道実験車

慶應義塾大学が環境問題の抜本的解決策として、民間企業の支援を得て進めているグランドアップデザインの8輪型電気自動車「Eliica（エリーカ）」。

展示2台の1台は記録挑戦車で、イタリアでセダン型電気自動車では世界最高となる時速370kmを記録し、低重心・8輪タイヤ8輪駆動による走行安定性、快適な乗り心地、車体堅牢性、優れた空力性能を実証した。もう1台は公道実験車で、仕様は4人乗り、640馬力、最高時速190km、1回の充電走行距離300km。現在テストランに入っている。この公道実験車をベースに、「エリーカ 2nd Proto Type」のデザイン開発を進めており、2008年からの少量生産販売を目指している。

# カロッツェリア展 「先進の匠」を競う

## 東京アールアンドデー

Carrozzeria

「すべては妥協のない純粋な走りの喜びのために」――が開発コンセプトの市販スポーツカー「VEMAC RD200」。890kg の軽量車両とミッドシップに搭載したホンダ製の2リッター i-VTEC エンジン、クロスレシオの6速 MT、4輪ダブルウィッシュボーンのサスペンションとの組み合わせが、最高のドライブプレジャーを与えてくれる。

「VEMAC RD408H」はハイブリッドスポーツカーのコンセプトモデル。ハイブリッドシステムはM-TEC社製 MF408S エンジン(4リッター V8)とピューズ社のツインモーターで構成。システム最大出力は 590kw(802ps)。今後の開発を進め、レース参加と少量生産スポーツカーへの搭載をめざしている。

ハイブリッドスポーツカーのコンセプト車「VEMAC RD408H」

走りの切れ味と快適さ抜群の「VEMAC RD200」

## サリーン

Carrozzeria

米国からの初参加。フォード社のレーシングマシンの開発、生産までを担っている同社からの出品は、フラッグシップモデルの「SALEEN S7TWIN TURBO」とフォード「マスタング」のハイパフォーマンスモデルとされる「SALEEN S281」の2台。

7,000ccV8エンジンを搭載した「S7」はル・マン 24 時間耐久レースなどへの参戦実績豊かなピュアースポーツマシン。2005 年モデルではツインターボが装着された。

「S281」はエンジン出力別に3グレードがあり、日本では今年から輸入販売されている。

米国では市販車最速を誇る「SALEEN S7TWINTURBO」

## シバックス

Carrozzeria

スポーツカーのようなストリートカー「KIRA(綺羅)」の第2弾が日本初登場の「XTILE(エクスティーレ)」だ。キーワードは「交錯」。前後ボディ、エクステリアとインテリア、メカニカルなディテールと官能的なフォルムなど、様々な交錯を試みている。「ファッションとしてのカーデザイン」を提案。シリーズ第一作の「綺羅」とともに出品している。

2004年パリモーターショーにも参考出品した「エクスティーレ」(手前)

## 鈴　商

Carrozzeria

今回が初参加。出品の市販スポーツカーは「スパッセ」のニューモデル「Supasse-C」だ。

国内メーカーの2リッターエンジンを搭載。4輪サスペンションはプッシュロッド式ダブルウィッシュボーンレイアウト。従来のFRPからカーボンにボディを切り替えている。

軽快で操作性の高い走りをアピールする「Supasse-C」

## OHNO CAR CRAFT

Carrozzeria

「NAOMI Ⅱ」(2001 年ジュネーブ国際モーターショーに出展)のリメイク版市販スポーツカー「The New NAOMI Ⅱ」。マツダのロータリースポーツ「RX-7 FD3S」をベースに、ロングノーズ・ショートボディの流麗なフォルムに仕立て上げている。

スポーツカー隆盛期のデザインを思い起させる「The New NAOMI Ⅱ」

## フィアロコーポレーション

Carrozzeria

「P67b ETERNITY」は 660cc エンジン搭載 2 シータースポーツの次世代 Three-Wheeler(三輪自動車)。車速とステアリングの操舵角に応じてボディの傾斜を自動制御する特殊なチルト機構DVCシステムを採用。乗り心地は他に類のない新感覚だ。カロッツェリア展は初参加。

三輪車のプロトタイプ車「P676 ETERNITY」

## 動　研

Carrozzeria

停まっても足の支えが必要ない、雨が降っても屋根があるから濡れない――二輪車の欠点をカバーするシティコミューターとして独自開発した「Touch-Down S」は発車時に補助輪が出入りして二輪車と四輪車に形態変化する。

もう一台、BMW の「K1200LT」をベースとして補助輪を付けた二輪車「Touch-Down for BMW K1200LT」を出品する。来年の発売予定。

二輪ー四輪の可変型コミューター「Touch-Down S」

# 「ともに道をひらく」福祉車両 メーカー各社の創意工夫が一段と進展

「高齢化社会」から「高齢社会」への移行、交通事故件数そのものの増勢基調を背景にクルマのバリアフリー化への要請は高まるばかり。その社会的ニーズに応じようと、各社は今回のショーでも様々に工夫した福祉車両を展開している。各ブースでの代表的な福祉車両を概括、見て回ろう。

●トヨタ自動車の福祉車両（ウェルキャブ）での注目車は参考出品の「ポルテ ウェルキャブ サイドアクセス車 脱着シート式 A タイプ」。脱着式の電動車いすに座ったまま助手席への乗り降りが自由に出来る。「ラクティス ウェルキャブ 車いす仕様車タイプ Ⅱ」は手押し型の車いすではあるが、車両後方から一気に助手席まで移動できるもので、子供の身障者向き。

ラクティス
ウェルキャブ
車いす仕様車
タイプ Ⅱ 1.3X

●ホンダの福祉車両（アルマス）ラインアップのなかで出展されているのが「ステップワゴン サイドリフトアップシート車」。大きく開くスライドドアとフル電動シートで乗り降りのスムーズさを強調。車いすは折りたたんでリヤ部に収納。7人乗りでゆったりくつろげ、会話もはずむこと受け合い。「Fit フランツシステム装着車」はすべてオーダーメイド。足だけで運転できるホンダ独自の足動運転補助装置が備わっている。

ステップワゴン サイドリフトアップシート車

●スズキは「New エブリィワゴン 車いす移動車」（リヤシート付き、 4WD/AT）を参考出品。車いすに乗ったままの乗車が可能。電動ウインチ装置 / リモコン操作を採用した、4人乗り5ナンバー車。

新型エブリィワゴン
車いす移動車リヤシート付

●日産自動車の「エルグランド ライダー アンシャンテ」は助手席スライドアップシート式。操作スイッチがスライドドアアップシートの左右両側に配され、乗車中に介護者が操作することも、身障者自身で助手席に座る操作が出来る使い勝手が定評。

エルグランド ライダー
アンシャンテ助手席
スライドアップシート

●マツダの i シリーズは「DEMIO i スロープ式車いす移動車」で「もっとやさしく、もっと自由に」を表現。車いす乗車時後退防止ベルト（ELR）や車いす乗員用手すりなど、車いすの人にも、介護する人にも安全・安心機能を充実している。

DEMIO i スロープ式車いす移動車

●ダイハツは軽自動車では初となる自操式福祉車両専用車の「ミラ セルフマチック」を出品。保安基準適合の専用車いすとリモコン操作の自動乗り込み装置の採用によって、専用車いすごと運転席への乗車を実現。また、一人ひとりの障害の程度や状態に合わせた運転補助装置の選択も可能とした。

ミラ・セルフマチック自操式福祉車両専用車

●スバルは「インプレッサ スポーツワゴン・1.5i G パッケージトランスケアウイングシート」を展示。助手席が回転し、スムーズな乗り降りをサポートするウイングシートに加え、メーカーオプションの電動式車いす収納装置も用意した。

インプレッサ スポーツワゴン・1.5i
G パッケージトランスケアウイングシート

●会場で大きな話題をさらっていたのが三菱自動車が参考出品した「コルト プラス セルフトランスポート仕様車」。リヤの荷室に車いすを収納するためのロボットアームを装備。このロボットアームが車いすを運転席とリヤの間でピー、ピーと音を発しながらリモコン操作で行き来する。運転席ではアクセルとブレーキが手動でも出来るので、自分でも運転する足の弱い身障者には朗報。同車の福祉車両シリーズ「ハーティーラン」の極め付けといったところだ。

コルト プラス セルフトランスポート仕様車

東京モーターショー2005シンポジウム（11月2日開催）

# 第6回自動車安全シンポジウム

## ――対策の効果評価とこれからの自動車安全対策――

■講演・パネリスト（和迩氏のみ）
和迩健二氏　国土交通省自動車交通局技術安全部国際業務室長
堀野定雄氏　神奈川大学工学部助教授
亀井則夫氏　三菱総合研究所主任研究員
■コーディネーター
吉本堅一氏　東京大学名誉教授
■パネリスト
近森　順氏　芝浦工業大学工学部教授
岩越和紀氏　（株）JAF MATE社長
岩貞るみ子氏　モータージャーナリスト
山ノ井利美氏（社）日本自動車工業会　安全・環境技術委員会安全部会長
谷口哲夫氏　（独）交通安全環境研究所・自動車安全研究領域研究領域長
■主催：国土交通省

第1部では、自動車安全対策の最新動向についての報告、事故分析の成果と今後の課題、過去に導入された主な対策の事後評価結果について、講演者3氏がそれぞれの専門分野を踏まえた報告。

そのなかで和迩氏は衝突安全基準の導入により、年間死亡者数が2010年目標の1,200人低減に対して、03年で約1,000人低減したとの試算を示し、これまでの諸施策がほぼ順調な成果を上げていると報告。さらに今後の車両安全対策について、10月19日、交通政策審議会に諮問したことを明らかにした。

堀野氏は安全対策サイクルの基本である事故分析結果を例示。車両対策もさることながら、街角のカーブ・ミラーの死角を無くすだけでも、事故を相当減らせるとの興味深い調査結果を示した。

亀井氏はフルラップ前面衝突基準と側面衝突基準の導入によって平成11年6月の運輸技術審議会答申以来、合わせて872人の死者を削減できたとの評価結果を明示した。

第2部のパネルディスカッションでは、谷口氏が予防安全技術の試験および効果測定方法としてのドライビングシミュレーターやドライブレコーダの開発の現状とその限界性に言及。これに対して近森氏が交通環境を再現するシミュレーターの開発を主張。また、山ノ井氏が、メーカー側の技術開発のスピードが早いので、レギュレーションを作る前に各メーカーの安全対策を評価する方法を確立して欲しい、と訴え、議論が白熱化。

一方、吉本氏がドライバーと車両の連携の重要性を指摘したのに対して、岩越氏は予防安全が運転領域にまで踏み込むのなら、ドライバーへの安全装置に対する機能保証も問題になる旨の注文を付けていた。

特別企画　フェスティバルパーク（西休憩ゾーン）

# 音とダンスで魅せた！――千葉県警音楽隊

11月3日正午から、千葉県警察音楽隊によるブラスバンド演奏会が行われた。同音楽隊は県民と警察の架け橋役として設立され、今年35周年を迎えた伝統あるバンド。

行進曲王スーザの名曲「雷神」にはじまり、「ディズニー・プリンセスメドレー」、「ソーラン節ロックバージョン」、「サザエさん」、「マツケンサンバⅡ」など、ブラスバンドの魅力を引き出す名曲、誰もが知っているポピュラー音楽など、バラエティ豊かなレパートリーを披露。また、華麗な衣装で身を包んだ「カラーガード隊」のダンスパフォーマンスも行われ、観客を大いに沸かせていた。

TOPICS トピックス

## イベントに大活躍するアストロビジョン

東京モーターショーの会期中、多種多様なイベントが盛りだくさんのフェスティバルパーク。舞台シーンの拡大映像の投影やインフォメーション表示など、さまざまな局面で活躍しているのが、パナソニック コミュニケーションズの移動式大型ディスプレイ「アストロビジョン」だ。

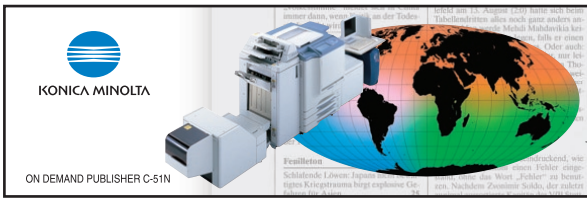
画面はLED方式で、サイズは実に170インチ。ディスプレイがビルトインされているトラックは4WD方式で、「雪道でも悪路でも、イベントのあるところならどこでも出向くことができる」（運営スタッフ）のが特徴だ。車両、業務用ビデオ装置などを含め、約1億2,000万円と、価格もアストロ級だ。

### 今日のイベント（予定）
### 2005年11月4日（金）

＊ジャグリングパフォーマンス
12：00～12：30
13：30～14：00
14：45～15：15
フェスティバルパーク（西休憩ゾーン）

＊クリーンエネルギー車同乗試乗会
10：30～16：30
特設専用コース（幕張海浜公園内 メッセ周辺公道）

※天候等の都合により予定が変更になる場合があります。


The essentials of imaging
ご存知ですか？
コニカミノルタ オンデマンドプリントシステムは、
世界56ヶ国の主要新聞276紙をサポート。

このニュースは コニカミノルタ
ON DEMAND PUBLISHER
C-51N で出力しています。
コニカミノルタ ビジネスソリューションズ株式会社
ODI事業部
TEL 03-5205-7820
Email odi-info@bj.konicaminolta.jp
URL http://www.ebook-print.com



TOKYO MOTOR SHOW 2005
11月3日の入場者数　152,600人
入場者数累計　1,182,700人

東京モーターショーニュースVol.16　2005年11月4日発行
発行所　社団法人 日本自動車工業会 広報室
〒105-0012　東京都港区芝大門1丁目1番30号　日本自動車会館
TEL.03-5405-6119　FAX.03-5405-6136
WEB SITE www.tokyo-motorshow.com
JAMA